

新年のご挨拶



皆さま、新年あけましておめでとうございます。昨年は、当センターへ多くの患者さんをご紹介いただき、また、逆紹介にも応じていただきありがとうございました。日頃のご協力に心から御礼申し上げますとともに、本年も続けてご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

当センターでは地域連携の強化に向けて、2014年8月に「患者支援センター」を立ち上げ、患者の前方・後方支援やトランジションを担当する地域連携部門、患者の心理・社会的サポートを担当する総合相談部門を統合して、患者支援を総合的に行える体制を整備し、昨年、年間を通じてその強化・充実に努めてきました。昨年7月からは入退院センターも稼働しています。里村副院長が患者支援センター長を、在宅医療を担当してきた位田消化器・内分泌科部長と地域連携を担当してきた鈴木小児神経科部長が副センター長を担当しています。加えて田家副看護部長が専任で、副センター長を務めています。患者支援センターでは、看護師、保健師、MSW、心理士、薬剤師、事務職職員など多職種のスタッフが業務にあたっています。



病院長 倉智 博久

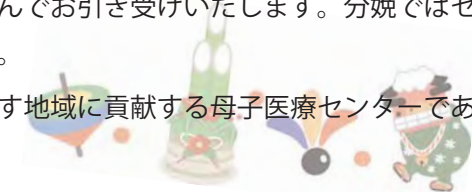
昨年6月からは「検査センター」を発足させております。先生方が担当されている患者さんで、一度CTやMRIを撮っておきたいと思われる患者さんもおられるかと思えます。このような時、ぜひ検査センターをご利用いただきたいと思えます。検査項目は、CT、MRIの画像診断に加えて、脳波、心電図、心エコーです。詳しくは、当センターホームページをご覧ください。

昨年7月からはPICUの病床数を12床に増やしました。これによって、重症な患者さんの受入れのキャパシティが大きくなりました。PICUでは重篤小児患者さんを可能な限り受け入れます。病院間搬送にも必ずお応えします。ICUを始め全病院の医師、看護師は先生方から依頼があれば必ず応じるという意気込みでおります。

われわれ母子医療センターでは、診療のハードルを下げて地域に貢献する病院でありたいと考えています。小児患者は、重症・希少疾患のみでなく、一般的な小児疾患患者も喜んで担当させていただきます。たとえば、虫垂炎や鼠径ヘルニア嵌頓などの小児外科疾患も小児外科医、麻酔科医が365日・24時間常駐しておりますので、どんな時間帯でも喜んでお引き受けいたします。また、小児の外傷後の整形外科的疾患にも対応します。妊婦についても、ハイリスク妊婦だけでなくローリスクの妊婦も喜んでお引き受けいたします。分娩ではセミオープンシステムを採用していますので、どうか積極的にご利用ください。

先生方のご協力をいただきながら、ますます地域に貢献する母子医療センターであり続けたいと考えております。

(病院長 倉智 博久)



基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

新生児科

新生児科は、出生体重 1000g 未満児を始め重症の新生児疾患を対象に 24 時間の集中治療を行っています。また、ハイリスク妊産婦に早期から一貫した保健指導と医療そして早産や胎児仮死等の診療に積極的に参加し、周産期の死亡と罹病を改善し、児と家族中心の医療を進めています。ハイリスク児のフォローアップを主に 6 歳まで（特に 1000g 未満で生まれた子は学齢期まで）行い、その検診結果をご家族に報告し、新生児医療の改善に役立っています。



新生児科スタッフ

2014 年の NICU への入院患者数は 458 名（2.8%）で、出生体重別に 1000g 未満 44 名（15.9%）、1000～1500g 未満 43 名（2.3%）、1500g 以上 371 名（1.3%）でした。

*（ ）内は死亡率

新生児搬送は 237 件（全国で 1-2 位の搬送数です）で、分娩立会 6 件、三角搬送（産科病院から他の NMCS 施設へ）103 件、当 NICU から地域の病院への搬送数（戻り搬送）が開院以来 34 年間で最も多く 51 件でした。戻り搬送とは、患者家族の住居に近い NICU への転院のことです。これにより NICU を効率的に使用して、産科の新たなハイリスク妊婦さんや緊急入院が必要な赤ちゃんの受け入れを進めることができます。地域 NICU のスタッフだけでなく転院されるご家族の温かいご協力がありがたく、職員一同感謝申し上げます。

（新生児科 主任部長 北島 博之）

形成外科

形成外科とは、形を造る外科です。

具体的には先天異常あるいは後天性疾患によって身体外表に現れた変形を、形態的並びに機能的に修復、再建することを目的とした比較的新しい外科の一分野です。顔面・体幹・四肢の外表奇形などの先天異常や、外傷・熱傷・手術後瘢痕などの後天性変形を主な対象疾患としています。



形成外科スタッフ

主な対象疾患

1. 顔面・体幹・四肢の外表異常（先天奇形）
唇裂、眼瞼下垂、耳介や鼻の変形、
手指・足趾の異常、女性化乳房、
臍ヘルニア（でべそ）、瘻孔など
2. 母斑、皮膚腫瘍
血管腫（赤あざ）、扁平母斑（茶あざ）、
色素性母斑、脂腺母斑、太田母斑など
3. 外傷、瘢痕（傷あと）、顔面骨骨折、
瘢痕拘縮（引きつれ）、ケロイドなど
4. 潰瘍、褥瘡
5. その他、頭蓋、顔面骨の形成異常、
無（小）眼球症、リンパ管腫など

これらの疾患に対し手術のみならず、各種レーザーを用いて機能的改善のみならず、整容面での満足も得られる治療をめざしています。またリンパ管腫に対する硬化療法や難治性潰瘍に対しては持続吸引療法や創傷被覆材などを用いた保存的治療と皮弁形成術などによる外科的治療とを組み合わせた治療も行います。

2014 年の年間初診患者数は約 1100 人、再診患者数は 4961 人でした。また外来でのレーザー治療件数は 1369 件で、手術件数は 421 件でした。

（形成外科 主任部長 吉岡 直人）

第2回 地域医療連携研修会のご報告

2015年10月24日(土)、梅田スカイビルにて第2回地域医療連携研修会を開催し、院内・院外より約100名の参加を得て盛会に終了しました。プログラムは、消化器・内分泌科 主任部長の位田忍先生による『こどもの低身長』と、昭和大学医学部産婦人科教授 関沢 明彦 先生による『無侵襲的出生前遺伝学的検査の現状と今後の展望』で、それぞれ最新の情報についてご講演いただきました。情報交換会では、恒例となりました当センターの診療科部長の紹介をさせていただきました。地域の医療機関の皆様からいただいたご意見は、以下のとおり改善につなげております。



- ①初診申込書を直接入力可能な形式で提供してほしい
- ②骨折や小児の救急事例を受け入れてほしい
- ③紹介した患者の返書は必ず欲しい
- ④初診までの待ち日数が長い科がある

- ①ホームページ上にWord形式での提供を開始し、直接入力していただけるよう修正しました。
- ②小児の骨折、虫垂炎等の緊急事例は原則として断らないことをモットーに可能な限り受け入れます。
- ③現在、返書送付率は98%で、今後は退院後の状況についても報告するよう努力いたします。
- ④待ち日数短縮化については、当センターの重点項目として順次対策をとっております。

大阪府立母子保健総合医療センターは今後も地域医療機関の皆様と「顔の見える連携」を心がけます。当センターへのご意見は、患者支援センター ☎0725-55-3113 までお寄せください。



成人移行期支援をはじめました

20歳を超える小児慢性特定疾患の患者数は、年間1000名ずつ増加していると言われております。当センターでも、2007年は全小児外来患者数に対し、802名(3.4%)でしたが、2013年には1430名(6.1%)に増加しています。

患者さんが成人に達しても、疾患・治療の複雑性、社会・経済上の問題、小児中心の医療システムに由来する問題、患者さん本人やご家族が抱える問題等で、成人科への移行が遅れるといった現状があります。このため小児期医療から個々の患者さんに相応しい成人期医療への移行が、重要な課題になってきました。

成人移行期支援とは

自己管理が必要な患者さんが大人へと成長する過程の中で、自立と社会参加を目指すために、医師をはじめ看護師やその他関係者が計画的に支援していくことです。

成人移行に必要な6つの領域での支援

- ①自分の健康状況を説明する
- ②自ら受診して健康状況について述べる、服薬を管理する
- ③妊娠の影響や避妊の方法も含めた性的問題の管理
- ④さまざまな不安や危惧を周囲に伝えサポートを求める
- ⑤自分の身体状況に合った就業形態の検討
- ⑥生活上の制限や趣味の持ち方の工夫



“ここからの会”

「ここから」には、「からだと一緒にここも子どもから大人に」という意味が込められています

当センターでは“ここからの会”で、心理士と看護師が中心となり子どもが持っている力をチェックリストを用いてアセスメントし、個々の成長に合わせた目標に向けて移行期支援に取り組んでいます。

News

当センター産科主任部長
光田信明先生が

平成27年度
産科医療功労者厚生大臣表彰を
受賞しました



この表彰は、厚生労働大臣が都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域のお産を支え産科医療の推進に貢献してきた個人や医療機関等の団体の功績をたたえるものです。

(厚生労働省ホームページより)



小児がんセミナーのお知らせ

大阪府立母子保健総合医療センターは2013年に小児がん拠点病院に指定され、2014年には院内に「小児がんセンター」を組織し、活動しております。その一環として、小児がんの子どもを支える専門職を対象に小児がんセミナーを開催いたしますので、どうぞ、奮ってご参加ください。



| 日時 | 場所 | テーマ | 事前申込 | お問い合わせ お申込先 |
|-------------------------|------------------|---|-------------|-------------|
| 1月29日(金) 18:00~19:30 | 当センター 中央会議室 | 韓国の造血幹細胞移植事情 韓国サムスンメディカルセンター Keon Hee Yoo先生 | 不要 | 患者支援センター |
| 2月6日(土) 13:30~16:30 | 当センター 研究棟大会議室 | 『がんの子ども教育』大阪セミナー | 必要 定員70名 | 患者支援センター |
| 2月27日(土) 14:00~17:15 | 難波御堂筋ホール | 小児がん拠点病院放射線技師研修会 | 必要 定員70名 | 放射線科 |
| 3月15日(火) 18:30~19:30 | 当センター 研究棟大会議室 | 小児脳腫瘍 関西医科大学附属枚方病院 小児脳神経外科 診療教授 埜中 正博先生 | 不要 | 患者支援センター |

イブニングセミナーと病院見学ツアーのお知らせ

引き続きイブニングセミナーを開催いたします。(事前申込み不要)

- 日時** 1月14日(木) 17時30分~18時30分
- 場所** 大阪府立母子保健総合医療センター 研究所大会議室
- テーマ** けいれん発作
- 担当部署** 小児神経科
- 講演者** 池田 妙



どうぞお気軽にご参加ください!



病院見学ツアー(16時30分~)も引き続き開催しています。事前に、参加者の氏名・医療機関名・職種・人数を患者支援センター ☎0725-55-3113 までお申込みください。

お知らせ

2015年12月から
新生児蘇生講習会
(NCPR) Aコースは
2015年版に
なりました

交通のご案内



診察時間：平日 午前9時~午後5時

予約受付時間：平日 午前9時~午後7時

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)

FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)

FAX: 0725-56-7785

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。